

# 平成28年度 廃棄物会計 28年度 資源物処理経費に総額約28億6,306万3千円

市民1人当たり 2万4,011円  
1世帯当たり 4万8,668円

平成28年度にごみ・資源物の処理にかかった経費は、総額で約28億6,306万3千円でした。これは、本市の平成28年度一般会計決算の約7.1%、市税収入の約11.9%になります。平成28年度のごみ・資源物の総排出量は27,102tで、1kg当たり105.6円となり、市民1人当たりで見ると2万4,011円、1世帯(平均約2.0人)当たり4万8,668円になります。

### 歳入総額は約4億3,061万3千円

ごみ・資源物の処理に係る歳入は、約4億3,061万3千円でした。これは、ごみ・資源物処理経費総額の約15.0%に当たります。歳入のうち、家庭系ごみ処理手数料は約2億8,773万4千円、粗大ごみ処理手数料は約3,061万3千円でした。

### 環境基金について

環境基金は、ごみ処理施設の整備や新たなごみ減量施策、環境保全事業の充実などに充当するため設置しているものです。平成28年度は環境基金に4億900万円が積み立てられました。内訳は、家庭系ごみ処理手数料収入約2億8,773万4千円の約25%に当たる約7,193万3千円、一般財源から約3億3,706万7千円です。

### 資源化処理にも多額の経費が使われます

平成28年度に資源化処理(資源物の収集、資源物・燃やさないごみ・プラスチックごみなどの資源化)にかかった経費は、約7億2,477万6千円(ごみ・資源物処理経費総額の約25.3%)でした。限りある資源を有効活用するため、資源物を分別することはもちろん大切です。しかし、その処理には多額の経費が使われます。そのことから、

まずはごみになるものを元から減らす発生抑制に取り組むことが重要です。

### まずは発生抑制に取り組んでください

日常生活の中で実践できる、代表的な発生抑制の取り組みを以下に紹介いたしますので、最優先での取り組みをお願いします。

- ▷生ごみの水切りを徹底する
- ▷マイボトル、マイバッグを持参する
- ▷余分なものは買わない
- ▷過剰包装やダイレクトメールは断る
- ▷食材は作りすぎない、使い切る

そして、発生抑制に取り組んだ後に、使えるものは何度でも使うリユース(再使用)、分別の徹底により資源になるものを捨てずに再生利用するリサイクル(再生利用)へ取り組むことも大切です。引き続き、発生抑制を最優先としたごみの減量・資源化の推進へのご理解・ご協力をお願いします。

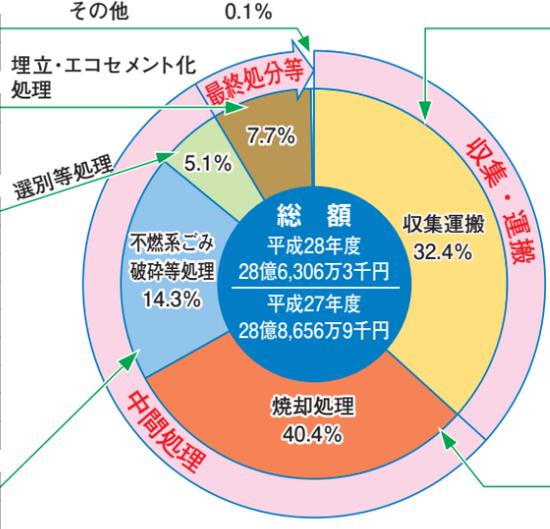
### 1t当たりの処理経費

種別	処理経費	
燃やすごみ	12万8,743円	
燃やさないごみ	15万5,967円	
粗大ごみ	可燃系・布団	11万7,724円
	不燃系	17万1,880円
プラスチックごみ	14万3,200円	
有害ごみ	12万8,277円	
古紙・布	3万1,025円	
びん・スプレー缶	6万6,787円	
空き缶・金属	17万5,551円	
ペットボトル	24万8,965円	
拠点回収	9万1,299円	
剪定枝・乾燥生ごみ	11万3,057円	
集団回収	1万4,960円	

### ごみ・資源物の処理に係る歳入内訳

家庭系ごみ処理手数料	2億8,773万4千円
事業系ごみ処理手数料	2,457万6千円
自家搬入ごみ処理手数料	2,087万1千円
粗大ごみ処理手数料	3,061万3千円
可燃・不燃ごみ有価物売り払い収入	4,548万8千円
その他	2,133万1千円

	平成28年度	平成27年度
その他	373万9千円	316万7千円
埋立・エコセメント化処理	2億2,042万5千円	1億9,645万円
選別等処理	1億4,616万6千円	1億3,636万1千円
古紙・布	493万7千円	261万円
びん	3,587万6千円	3,349万4千円
空き缶・金属	3,098万4千円	3,060万1千円
ペットボトル	2,709万2千円	2,592万1千円
拠点回収	426万1千円	424万6千円
可燃粗大・布団	1,255万6千円	984万4千円
剪定枝・乾燥生ごみ	3,046万円	2,964万5千円
不燃系ごみ破碎等処理	4億803万6千円	4億7,111万7千円



	平成28年度	平成27年度
収集運搬	9億2,908万5千円	9億2,491万7千円
燃やすごみ	3億3,348万4千円	3億3,302万5千円
燃やさないごみ	5,437万9千円	5,429万9千円
粗大ごみ	4,688万2千円	4,682万1千円
プラスチックごみ	9,720万5千円	9,706万5千円
古紙・布	1億6,061万4千円	1億6,037万5千円
びん・スプレー缶・有害ごみ	3,307万4千円	3,301万5千円
空き缶・金属	3,715万2千円	3,711万2千円
ペットボトル	5,569万9千円	5,563万9千円
拠点回収	430万1千円	436万6千円
剪定枝・乾燥生ごみ	8,180万5千円	7,917万5千円
集団回収	2,449万円	2,402万5千円

※焼却処理 11億5,561万2千円(平成28年度) / 11億5,455万7千円(平成27年度)  
※浅川清流環境組合負担金を含む

処理するのにどれくらいかかるのか?

燃やすごみ (1kg)	燃やさないごみ (1kg)	プラスチックごみ (1kg)	古紙・布 (1kg)	びん・スプレー缶 (100g当たり)	缶 (50g)	2ℓペットボトル (75g)
128.7円	156.0円	140.3円	31.0円	6.7円	8.8円	18.7円

## ごみ減量大作戦!!

日ごろから、ごみの減量と資源化にご協力いただきましてありがとうございます。10月16日は「世界食糧デー」、10月は「食糧デー月間」です。食べられるのに捨てられてしまう食品のことを「食品ロス」といいます。全世界では、9人に1人が飢餓に苦しんでいる一方で、作られる食料の3分の1が捨てられています。これは量にしておよそ13億tです。日本の食品ロス(642万t/年)のうち、約半分(312万t)が、家庭から排出されています。お米に換算すると1日におにぎりを2個ずつ捨てていることになります。家庭での食品ロスを減らす工夫として、買い物の前に冷蔵庫の中を確認してみる、調理のときに野菜などの皮をむき過ぎない、食べ切れる分だけ調理する、残った料理に調味料や食材を加えて新しいメニューを作る、冷凍保存するなど、ちょっとした心掛けと工夫で食品ロスを減らすことができます。気がついたときに、できることから試してみてください。

**【7月分のごみ排出量報告】**  
7月分の燃やすごみ1人1日当たり排出量は、263.4gとなり、目標値(275.4g)を12.0g下回りました。

ごみ1人1日当たりの排出量(単位:g)

燃やすごみ(市内全域)	7月	目標値	差引
	263.4	275.4	△12.0

やった目標達成

(参考)燃やすごみ 前月・前年度同月の排出量	29年度6月	28年度7月
	271.0	284.1

燃やさないごみ(市内全域)	7月	目標値	差引
	26.8	33.5	△6.7

やった目標達成

(参考)燃やさないごみ 前月・前年度同月の排出量	29年度6月	28年度7月
	33.2	31.8

## 可燃ごみ処理の支援に深く感謝申し上げます

市内から発生する可燃ごみは、平成19年3月末に老朽化に伴い可燃ごみを焼却処理していた二枚橋衛生組合の全焼却炉の運転を停止したことから、平成19年4月より、その全量を多摩地域の各団体の焼却施設で処理していただいています。これまで長年に渡り、ご支援をいただいた多摩地域各団体の施設周辺にお住まいの皆様ならびに関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

平成29年度可燃ごみ処理については、多摩川衛生組合(構成市:稲城市、狛江市、府中市、国立市)、国分寺市、ふじみ衛生組合(構成市:三鷹市、調布市)および柳泉園組合(構成市:東久留米市、清瀬市、西東京市)からご支援をいただいております。滞りなく処理することができています。施設周辺にお住まいの皆様ならびに関係者の皆様に重ねて感謝申し上げます。

可燃ごみの共同処理については、浅川清流環境組合(構成市:日野市、国分寺市、小金井市)にて、新可燃ごみ処理施設の平成32年度の本格稼働をめざして事業を進めています。新施設が稼働するまでの間、その処理を多摩地域の各団体をお願いしなければなりません。市民の皆さんには、ご支援をいただいている各施設周辺にお住まいの皆様および関係者の皆様へのご負担を軽減するため、引き続き、循環型社会の形成に向けて、ごみの減量・資源化の推進に取り組んでいただくようお願いいたします。

**平成29年度可燃ごみ処理の支援先**

支援先	支援量
多摩川衛生組合	6,000 t
国分寺市	3,600 t
ふじみ衛生組合	3,500 t
柳泉園組合	500 t
合計	13,600 t